

## 論文審査の結果の要旨

氏名：THANT SHIN

博士の専攻分野の名称：博士（生物資源科学）

論文題名：Ethnobotanical study of plant resources in Southern Shan State, Myanmar

（ミャンマー南シャン州における植物資源の民族植物学的研究）

審査委員：（主査） 教授 内 山 寛 印

（副査） 教授 青 木 俊 夫 印

教授 倉 内 伸 幸 印

本研究は、ミャンマーの植物資源の伝統的な知識と実践について民族植物学的分析に基づいた実証を目的とした。ミャンマーは地球上の生物多様性のホットスポットの一つである一方で、近年の高まる経済発展と人口増加により自然環境が急速に失われてきている。また、地域社会の生態系への依存性はほとんど調べられておらず、それは国の政策や経済開発の中でも見落とされている。それゆえに、ミャンマーにおける植物多様性の正確な理解が緊急に必要であり、民族植物学的研究は植物資源に関連する新しい情報を得るために役に立つと考えられる。

調査は南シャン州にあるそれぞれ異なる歴史的背景を持つ3つの村で行われた。有用植物に関する情報は、野外採集とインタビューを行って収集した。野外採集はそれぞれの村で一人の情報提供者を伴って行ったが、情報提供者には計19人を選んだ。さらに複数の村人を加えてグループ討論を行い、植物の利用に関する情報を得た。植物種の同定にはDNAバーコーディング法を利用した。

種の同定は標本に基づいて行い、採集された673標本から469種が同定されたが、DNAバーコーディング法の適用は種同定に極めて有効であった。同定された植物のうち277種が有用植物であり、利用方法に複数のカテゴリーに分けられた。野生の食用植物は現在でも重要な役割を果たしており、食物摂取の多様性を高め、食糧不足の問題にも対応していた。材料植物は植物ごとの優れた特徴を生かしてさまざまな用途に利用されていた。薬用植物は様々な病気に対する伝統的な治療法に使われていて、その知識は維持されていた。その他の用途には、化学成分（染料、魚毒など）、環境保全、社交目的などの利用があった。

本研究の結果、調査地域の民族植物学的知識の証拠書類を作成することができた。調査した地域社会は現在でも彼らの日々の生活を植物資源に頼っていて、それらの植物種の大部分は周囲の森から採取されていた。そのためいくつかの薬用植物は高い市場の需要もあって野生状態での絶滅が心配された。一方で、生活スタイルの変化は民族植物学的知識の喪失の一因となっていた。植物資源利用の知

識や実践の中には注目に値するものがあり，地域社会の伝統的な民族植物学的知識はその場所での生物学的保全や経済開発の計画に優先的に活用されるべきであると考えられた。

以上本論文は学術的および応用的価値の極めて高い知見を含んでおり，審査員一同は，本論文が博士（生物資源科学）の学位論文に値するものと認めた。

よって本論文は，博士（生物資源科学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以上

平成30年2月21日